

# 縮小社会研究会 第84回研究会



日時：2024年11月10日（日） 16:00 ~ 17:30、  
所：事務所&オンライン開催（zoom）

1960年に1千数百万人いた農家人口は、この60年で10分の一に右肩下りで減少しました。農家は高齢化もして平均年齢は68歳と、サラリーマンでいえば、年金生活者が日本農業を支える大黒柱です。お米の価格が長く低迷したため、稲作農家の時給はたった10円です。団塊世代が農業からリタイアする時期を迎えたのに、後継者はわずかしきいません。日本農業の絶滅さえ危惧されると言ったら、極論だと思いませんか。政府は頼りにならないし、そもそも期待もしていけないのでしょうか。一人ひとりの市民が自覚し、自給するか農家とつながる。さらに、真っ当な地方自治が実現できるよう、住民にとって健全な政策を展開していくことにわずかな光明があるのかもしれない。

## 日本農業は衰弱死するか？

講師：大野和興さん（農業ジャーナリスト）

司会 長谷川浩（縮小社会理事）

講演要旨：2025年は敗戦80年です。80年前、私たちはアジア全体で2000万人のいのちと引き換えに平和憲法を手に入れ、この国は耕すものが土地を持つ自作農の国に生まれかわりました。幼児期、四国の山の村で自作農の誕生に触れた私は今、その崩壊に立ち会っています。

80年間自作農という存在を支えてきた精神性、農法、経営観はいかなるものでそれはなぜ崩れたのか、をふりかえりながら、これからの農を担う主体をさがし、その主体を支える価値観、経営・技術思想、人と自然、人と人との関係性のあり方を考えます。



大野和興さんの略歴： 農業ジャーナリスト。愛媛県出身。「日本農業新聞」記者を経て、フリージャーナリストに。「日刊ベリタ」編集長、アジア農民交流センター世話人、国際有機農業映画祭実行委員会運営委員を務める。『アジア小農業の再発見』『食大乱の時代』など著書多数。

講演終了後、事務所にて懇談会を開催します。

zoomのURL：<https://us02web.zoom.us/j/88183855054?pwd=qApwAPQ3YUVVVL1xPu4B6WGbmKEzMcd.1>

パスコード：440205、ミーティング ID: 881 8385 5054

参加登録：松久 ([h.matsuhisa@shukusho.org](mailto:h.matsuhisa@shukusho.org)) まで氏名、所属、メールアドレスを連絡願います。

会場での参加は定員が先着15名です。また、懇談会への参加も有無をお知らせください。

参加費：会員は無料、非会員は500円